

1 諮問内容「今後の府立高校のあり方等について」

グローバル化が進展し、Society5.0に向かう一方、少子化が加速していく今後の社会を見据え、これまでの府立高校の取組みを総括したうえで、多様な子どもたちの学びを保障し、希望する進路を実現するなど、府民ニーズに応え、未来の大阪を担う人材を育成するため、今後の府立高校のあるべき姿等について諮問

＜審議テーマ＞

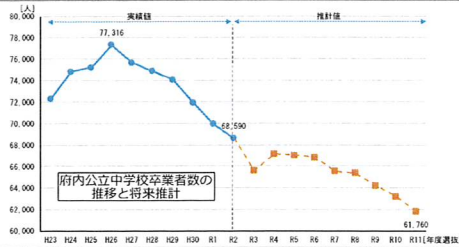
- ・高い公平性を実現する今後の府立高校のあり方
- ・卓越性の観点からの府立高校の特色化・魅力化
- ・新しい時代における多様な生徒のための個別最適な学び
- ・人口減少下における府立学校の全体像

＜審議の方向性＞

「卓越性」「公平性」の高い次元での両立、「多様性」の追求について、さらに発展させるための具体的な方策を検討

2 府立高校を取り巻く現状と課題

▶公立中学校卒業者が減少する一方で、府立高校間で受験者が流動化した結果、入学者選抜における二極化の状況が顕著となっており、状況の解決に向けた取組みが必要。



年度選抜	H28	H29	H30	R1	R2	R3
一般選抜(倍)	1.16	1.17	1.17	1.14	1.13	1.10
不合格者数(人)	7,658	8,078	7,483	6,595	5,956	5,666

年度選抜	H28	H29	H30	R1	R2	R3
学校数(校)	58	63	51	54	45	51

年度選抜	H28	H29	H30	R1	R2	R3
志願割れ人数(人)	687	567	549	1,067	1,177	2,411
学校数(校)*	29	24	27	38	43	60

* 複数学科設置校にあっては、1学科でも志願割れをした学校を計上した。

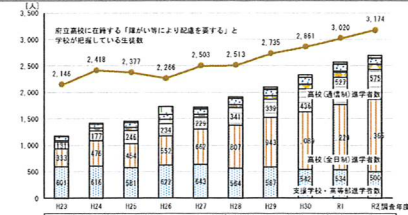
現行制度における公立高等学校入学者選抜の状況

▶中学校等の支援学級に在籍していた生徒が高校に進学する割合は年々増加しており、府立高校における知的障がいのある生徒等への教育環境の整備を引き続き実施していくことが必要。

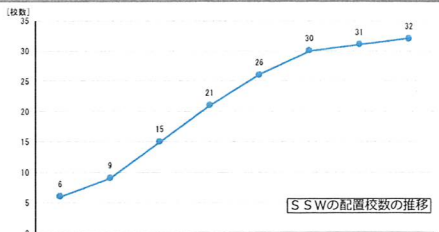
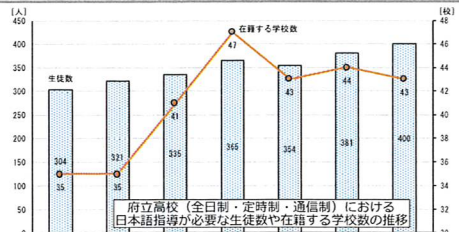
令和元年度卒業生数 ^{※1}	支援学校 ^{※2}	高校等 ^{※3, ※4}
支援学校中学校部	661人	645人 97.6%
中学校	2,220人	271人 12.2%
支援学級	1,166人	148人 12.7%
計	3,047人	1,064人 34.9%

府立高校における知的障がいのある生徒の教育環境整備事業	自立支援コース ^{※1}	共生推進教室
高等学級の上記以外	26人	30人
計	1,741人	1,807人

※1 「大阪の実業教育(令和2年度版)」より、※2 府立以外を含む、※3 〇は全日制への進学、※4 大阪府分含む



▶家庭の経済状況や日本語指導をはじめ様々な課題を抱える生徒が一定数に在籍する府立高校において、SSWの配置等を行っているが、それらの取組みを充実させていくことが必要。



3 中間報告の概要

＜検討の視点 ～公平性の観点から～＞

生徒の多様性に応じて、教育の機会均等の確保や、教育の質の向上をどのように図っていくべきか

上記の視点を基に、以下の3つの考え方を軸に提言

▶生徒のニーズに応じていく就業機会の確保

＜主な提言＞

- 生徒の多様性への対応
 - ・「ともに学び、ともに育つ」教育をより具体的・実践的な仕組みで行う府立高校の設置や、府立高校と支援学校の併設等に係る検討が必要。

○学校の配置と募集学級数

- ・学校配置を検討する際は、公共交通機関の整備状況や地域の状況をはじめ、生徒の通学状況にも十分配慮することが重要。
- ・全日制の募集学級数については、生徒のニーズに応えることができるよう、公立高校全体の募集状況を勘案しながら弾力的に設定していくことが重要。

▶生徒の多様性に対応した学習・支援機能の充実

＜主な提言＞

- 様々な課題を抱える生徒への学びの支援
 - ・生徒の幅広い多様性への対応については教員だけでは限界があり、教員以外のSSW、日本語支援、保健、医療、福祉等の専門人材が府立学校全体をカバーできる仕組みの整備が重要。

○エンパワメントスクールシステムの充実

- ・エンパワメントスクールのシステムについて、学校間で定員充足率や生徒の学習に係る傾向の違いが生じている現状を踏まえ、各校のカリキュラム編成等の柔軟化や、生徒の自己実現を支援するための専門人材をはじめとする外部と協働した支援体制の拡充等について検討することが重要。

○ICTの日常的な活用

- ・生徒が自ら考え・学ぶツールとして、また、配慮が必要な生徒への有効なツールとして、ICTを日常的に活用するためのスキームを段階的に進めていくことが必要。

▶卒業後をみすえた進学・就職の支援

＜主な提言＞

- ・府立高校のすべての生徒が、卒業後の進学や就職等を見据え、社会の一員として求められる役割を果たすためには、入学当初からの系統的・継続的なキャリア教育を通じて、生徒一人ひとりの個性、能力を最大限発揮しながら、自ら考え、行動していくために必要な能力や態度を育てることが重要。